発行：一般社団法人小平市国際交流協会（KIFA）

2023年
No.98
1月1日発行

国際こだいら

KODAIRA INTERNATIONAL FRIENDSHIP ASSOCIATION（KIFA）

●2022KIFAのつどい ～KIFA Friendship Day 2022～
●多文化理解講座 in English
●日本語ではなそう〈保育茶話会〉 ほか

プィサンキ教室　2022年10月28日（金）

ウクライナのキーウ出身のテチャーナ・ソロツカさんによるプィサンキ教室を取材しました。KIFA では 2013 年と 2015 年にも教室が開かれています。

プィサンキとは、キリスト教より昔の太陽信仰の時代からウクライナで作られている、卵の殻にろうけつ染めをした手工芸です。動物、鳥、幾何学の模様や各色に意味があり、祈りを込めて作られたプィサンキは、家族や友人と交換したり、作物の豊作や子どもの成長などを願って飾られるそうです。

この日は３回連続教室の最終日、受講生 15 名とボランティア４名、講師のソロツカさんを交えて、開始前から楽しそうな会話が聞こえました。

まず卵の殻に、分割線、枝葉、鳥を鉛筆で下書きするのですが、球体に真っ直ぐ線を引くのさえ難しそうです。次に、蜜ろうの入った専用のペンを使い、ろうそくの火でろうを溶かしながら、白く残したい部分をなぞります。蜜ろうの溶け具合や書き方で線の太さが変わり、あちこちで悪戦苦闘している姿が目立ちました。

染料の入った瓶が机の上に並べてあり、ボランティアも手伝いながら、各自で卵をまず薄い色に漬けて染めます。そして薄い色に残したい部分を蜜ろうで塗りつぶし、次は濃い色に漬けて、という繰り返しで、最後は黒い染料で真っ黒い卵になりました。

仕上げに卵をろうそくの火であぶり、ティッシュで蜜ろうを拭き取ると、なんとカラフルな絵が浮き出てくるのです。そのワクワクする瞬間がプィサンキ作りの醍醐味（だいごみ）のようです。

講師のソロツカさんは、冗談で皆を笑わせながら楽しく教えており、皆の個性的な作品がそろった後、「ウクライナへの支援をいつもありがとうございます。」と頭を下げながらおっしゃいました。

「プィサンキの模様の意味まで教えてもらい、日本の御守りと似ていると知って、自分の心にもよかった」と受講生。ウクライナがとても身近に感じた２時間でした。

2022 KIFAのつどい ～KIFA Friendship Day 2022～

2022年11月27日(日)

● 午前の部 ●

毎年秋に行っていた「こだいら国際交流フェスティバル」に代わり、今年は外国人とKIFAの会員が一緒に遊んだり交流する「2022KIFAのつどい」が開催されました。

午前は、理事長の開会あいさつに続き、東京小平ロータリークラブと東京小平ライオンズクラブに感謝状の贈呈がありました。日本語会話教室等で使用しているホワイトボードやいすを一新していただいたことに対するものです。贈呈式の後、両クラブの会長からごあいさつがあり、「よりよい地域づくりに貢献していきたい」「今後も奉仕の気持ちを持って活動していく」とのお言葉がありました。KIFAとしても、このような団体のご支援に応えて、小平市の多文化共生活動を充実させていきます。

贈呈式に続いては、「外国人の在留資格の現状と基礎知識」と題し、KIFA理事でもある行政書士の長澤雄二郎講師による講演会がありました。在留資格（ビザ）というと日本人には身近な問題ではないかも知れませんが、外国人にとっては切実な問題です。行政書士には、ビザの変更、永住や帰化の申請、家族の問題など、いろいろな相談が寄せられるそうです。そのようなビザにかかわる様々な問題について、資料と共にパワーポイントを用い、具体的に説明がありました。

行政書士の長澤雄二郎さん

小平市の在留外国人は、現在は約5000人ですが、留学生の割合が多いのが特徴となっています。留学生には『資格外活動』で週28時間以内のアルバイトが認められていることなど、ビザに対する規制は複雑なようです。困ったときには、やはり専門家にお聞きするほかなさそうです。

日本は超高齢社会で、人口も減少していく中、外国人の受け入れをどう制度化していくのかは重要な問題です。外国人の受け入れと共生は車の両輪と、国の方でも法改正が進められているようですが、どのような内容になるのか注目していきたいものです。

● 午後の部 ●

午後1時から3時までは、KIFA Friendship Dayということで、各ボランティアグループが工夫を凝らしたブースが並びました。

ロビーからは綿菓子の甘い匂いが漂い、色とりどりのヨーヨー風船がお祭り気分を盛り上げていました。翻訳・通訳ボランティアの声掛けで、外国人のファミリーも引き込まれていきます。

国際理解講座グループによる書道体験は、自分で一作品書き上げるようになっており、その横では風呂敷の包み方を教えています。災害時対応チームによる防災クイズでは、番号札を上げて楽しみながら、防災知識を得られました。

2階の和室で奏でられる琴の音色は心地よく響き、爪を付け弦を弾く貴重な体験は若い女性に人気でした。日本語会話教室(土曜日)のボランティアが、コロナ前からあたためていた企画だそうです。

世界の料理グループのゆで饅頭売り場を通って行くと、こども日本語教室グループによる折り紙やけんだま、昔遊びのコーナーがありました。交流イベントグループによる割りばし鉄砲作りは、手順が分かりやすいように何枚もの写真を用意し、出来たら的当てで実際に試せるという充実ぶり。3人の男の子が教えてもらいながら、真剣に割りばし鉄砲を作っていました。

そして3階には、生活情報提供チーム主催の多文化カフェが設けられ、多国籍の人が談話している様子が見られました。

閉会の時間になると、ナイジェリア出身のフェミさんが音頭をとり、皆で輪になりダンスで締めくくりです。前に出て踊る息子のアキンくんのステップの軽やかさに、歓声が湧きました。

多くの人々の支援のおかげで、小平に暮らす外国人が地域とつながる楽しい「KIFAのつどい」となりました。

～KIFA Friendship Day 2022～

朝から 120 個作りました

フィナーレのアフリカダンス

風呂敷のつつみ方を教わりました

多文化理解講座 in English

秋に開講されている「多文化理解講座 in English」が始まったのは 2015 年です。毎回 3 か国の外国人講師がそれぞれの国の紹介を英語で行います。今年は 8 回目でした。

● 10 月 1 日　インドネシア　中原サリさん

日本在住 13 年、英語教師歴 23 年のベテランで、現在はインドネシア語も教えています。

インドネシアは人口 2 億 4 千万（世界 4 位）で島しょ国家としては世界一の面積を持つ大国ですが、国家として独立したのは第 2 次世界大戦後の 1945 年です。

古代にはボロブドゥール遺跡で有名なヒンドゥー王国や仏教王国が栄え、イスラム化とオランダによる植民地化を経て、大戦中は日本領となり独立します。その後数年続いた独立戦争に残留日本兵が参加した歴史もあります。

1000 を超える民族、700 以上の言語が共存しています。イスラムが多数派ですが、伝統宗教も残されており、最後は、ご主人の中原勇一さんの専門でもある「バリ島のスピリチュアルな世界」の話で盛り上がりました。

● 10 月 8 日　モンゴル　エンフーアムガラン・エルベジャルガル（エベ）さん

エベさんは、モンゴルの中央銀行に勤めていたエコノミストの女性です。現在一橋大学修士課程に留学中。

モンゴルは日本の 4 倍の広さの国土に 330 万人が暮らす国です。現代では人口の大半は都会に集まっていますが、広大な草原には、ゲルと呼ばれる移動式住居で遊牧生活を営む人々がいます。エベさんも、家族のゲルを訪れると、とてもくつろげるそうです。

そんな遊牧生活から生まれたモンゴルの長唄は、一つの言葉を独特の節回しで延々と歌い上げる伝統歌謡ですが、なぜか日本人の郷愁をかきたてます。

ジンギスカンの大帝国の歴史を持ち、人口の 95％がモンゴル語を話すモンゴル人の国ですが、エベさんの話ぶりからは、急速に発展する国の若いエネルギーを感じました。

● 10 月 15 日　メキシコ　エドガル・バジェステロスさん

エドガルさんは日本 3 年目、メカトロニクスのエンジニアです。ここ 2 年間は小平をベースにスペイン語を教えていて、今年度は KIFA スペイン語教室の講師もしています。

メキシコの人口は日本とほぼ同じで国土は 5 倍、首都や主要都市は高度 2600 メートルの高地にあります。

旅行好きの青年らしく、カラフルな写真のプレゼンテーションで、有名なピラミッドだけでなく、メキシコの観光地や食べ物、野生動物を紹介。チワワがメキシコ原産の犬だとか、アボカドやカボチャが名産品であることなど、親しみを感じる話が多かったです。

「日本の食べ物はおいしいけど、納豆だけでなくこんにゃくも NG」というはなしには、皆大笑いでした。

日本語ではなそう ～保育茶話会～

取材日：10月31日（月）

保育ボランティア主催の茶話会が10月29日と31日の2回開催されました。

KIFAは、日本語会話教室を週4回開講しています。そのうち月曜と土曜日の午前中は保育サービスがあり、受講生はレッスンを受けている間に、子どもたち（主に乳幼児から小学校低学年まで）を保育ボランティアに預けて、安心して日本語を学ぶことができます。これは小平市内では唯一の保育付き日本語会話教室のプログラムです。

この茶話会は、教室がおわったあと1時間ほど行われ、

受講生7人とその子どもたち4人、そして保育ボランティア8名が1階の会議室へ集まりました。

嬉しいことに、予想以上の人数が集まったため、4つのグループに分かれておしゃべりをしました。それぞれが、普段の生活で困っていることや話したいことをざっくばらんに話していました。例えば、保育園の入園申請をして結果を待っていること、子どもの言語習得にまつわる話、住んでいる地域の学区や通っている小中学校について、また普段遊びにいく小平近辺の公園などの話が展開されました。

取材日は、ちょうどハロウィンということもあり、参加者にお菓子が配られました。子ども達は早速お菓子を食べながら、時折ボランティアに見守られ、のんびりとしたひと時を過ごしていました。

途中、KIFA事務局から、子どもの絵本の読み聞かせの動画サイト(rainbow-ehon.com)の紹介がありました。このサイトでは、あらゆる言語で日本の物語が見られ、子どもも大人も楽しく学べるようになっています。

保育ボランティアは、開始前は人が集まるか不安でしたが、にぎやかな会となり、安心したとのことでした。今後も茶話会を開催し、参加者同士の横のつながりが広がるよう期待しています。

理事寄稿　一人一人が安心できる「居場所」を持てる社会に

株式会社ASIA Link　代表　小野朋江

私のKIFAとの出会いは、20年近く前にさかのぼります。当時私は、駆け出しの日本語教師でした。日本語学校で留学生に日本語を教え始めたばかりで、まだ実践が足りず、もっと上手に教えられるようになりたくてKIFAの日本語教室のボランティアに応募したのです。そこで、小平に住む外国人の方々と出会い、日本での生活に日本語力の向上が大きな役割を果たしていることを目の当たりにしました。日本語が話せるようになることで、ママ友ができて子育てが孤独ではなくなったママもいましたし、日本人の配偶者との関係性が対等になった方もいました。

こうして、日本語教師の仕事が大好きになっていったのですが、次第に自分が勤める学校の留学生から就職相談も受けるようになりました。相談を受けるようになって気づいたことは、外国人が日本で就職するにはいくつものハードルがあるということです。日本語の壁はもちろんですが、日本語が上手な留学生でも、就職活動の中で「外国人はちょっと…」と企業から言われたり、「自己主張が強そう」「すぐに辞めてしまうのでは」と企業から心配されたりして、優秀なのに就職先が決まらず国に帰っていく留学生が何人もいました。せっかく夢を持って日本に来てくれたのに、「日本に私の居場所はありません」と、がっかりして帰国していく留学生を見て、日本企業と留学生の相互理解を深め、両者をつなぐ仕事がしたいと考えました。2011年に留学生専門の就職支援会社を起業し、日本企業に留学生を紹介する仕事を日々行っています。

海外で生活するには、安心できる「居場所」が必要だと思います。その人の存在を承認してくれる居場所です。職場でも学校でも家庭でも仲間でもいいのです。一人一人がそんな「居場所」を持てる社会が、多文化共生社会なのかな、と思っています。

編集後記

世界に目を向けると、パキスタンの国土の三分の一が水没したなど豪雨による水害、一方では干ばつの被害などが報道されています。温暖化を少しでも食い止めるには、これから10年が勝負。一人一人の力はわずかですが、常に温暖化阻止を頭の片隅に置いて、日常生活を送りたいと思います。　(Y.Y)

発行日　2023年1月1日
発　行　一般社団法人
小平市国際交流協会
編　集　機関紙グループ

〒187-0045
小平市学園西町2－12－22
学園西町地域センター 3階
TEL. 042-342-4488
FAX. 042-347-3003
Eメール:info@kifa-tokyo.jp